

第2回
浅草地区まちづくりビジョン策定委員会

日時：令和5年2月15日（水）
10：00～12：00
場所：台東区民会館9階特別会議室（大）

10時00分 開会

1 開 会

2 会長挨拶
<岸井会長 挨拶>

3 議事

○事務局 会長、ありがとうございました。続きまして次第の3、議事に入る前にお断りいたしますが、本会議は設置要綱第8条の規定に基づき会議及び会議録を公開しております。本日、傍聴の方もいらっしゃっておりますので、そのままご入場いただいております。

また、会議の資料及び議事録は、内容を確認の上、発言者のお名前を伏せた上で、区のホームページで後日公開させて頂くことをご了承願います。

それでは、以降の議事につきましては、岸井会長、よろしくお願いいたします。

(1) 第1回ビジョン策定委員会（部会合同開催）の振り返り

○会長 それでは、お手元の議事次第をご覧ください。今日は5つほど議題がございます。順番に説明していただいて、意見交換をしたいと思います。最初に、第1回ビジョン策定委員会（部会合同開催）の振り返りからお願いします。

<事務局より資料1について説明>

○会長 ありがとうございます。ただいまの説明について、何かご質問ご意見等があればいただきたいと思いますがいかがでしょうか——よろしいでしょうか。それでは、先に進めていきたいと思っております。次は、ビジョン策定に向けた調査の結果について、よろしくお願いいたします。

(2) ビジョン策定に向けた調査の結果

<事務局より資料2について説明>

○会長 ありがとうございます。それでは、今ご説明のありました調査結果、論点の絞り方等についてご質問ご意見を伺えればと思います。いかがでしょうか。

○会長 資料2の9ページのデジタル人流データ分析調査で、浅草地区からミズマチあるいはスカイツリーとの往來の数字が出ていますが、これは歩いて移動している人を捉えているという理解でよろしいでしょうか。電車での移動は把握できていないのでしょうか。

○事務局 こちらは、浅草地区、ミズマチ、スカイツリーという各エリア内にいた人を捉えているデータになっております。そのため、各エリア間の交通手段は問わないデータの整理となっております。

○会長 携帯電話をお持ちの方がそのエリアにいることを確認した上で、浅草にいた方がスカイツリーにもいた、と考えるということですね。移動方法はわかりませんが、ここにいた方が向こうの地区でも確認できました、ということでご判断いただきたいと思います。ミズマチのリバーウォークはどれくらい人が通っていたのでしょうか。

○事務局 参考資料2別添の2ページをご覧ください。こちらの右下に1日あたりのリバーウォークの利用者数を示しております。2022年5月の4週ですが、平日と休日に分けて、浅草側からと墨田区側からの往來を整理してございます。

○会長 平日であれば、浅草からミズマチへは、多くの方がリバーウォークを歩いていると感じられます。休日になると、少しバランスは変わりますが、それでも歩いている方が多いかと思えます。同ページ左にある1日あたりのエリア間の往來者数の数字について、休日で、浅草地区からスカイツリー側へ15,200人、ミズマチ3,100人、5,100人等の数字がありますが、ダブルカウントされていないのでしょうか。

○事務局 こちらは往來者数となっておりますので、ダブルカウントはございません。

○会長 浅草地区からミズマチを通らないでスカイツリーへ行く人が15,000人くらいいるという見方になります。ミズマチに行く人はリバーウォークを歩いて行く人が多いけれども、スカイツリーへ行く方はそういう方法ではないかもしれないと、ご判断いただければと思います。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

○委員 報告いただいた調査において、属性別の行動の分析も重要ではないかと思っています。例えば、渋谷では、10代や20代の若者というのは、まち中に4、5時間滞在しても5,000円以下しか使わない人が多かったです。一方で、30代は1、2時間しか滞在しないけれど、5,000円以上使う人が増えます。また、それが40代以上だと1,000円くらいしか使わない人が増えるなど、お金の使い方や滞在の仕方が結構変わりますので、そういったことを分析できると良いのではないかと思います。

また、空間整備による課題解決の話がありましたが、もう少しミクロな歩行者の動き、例えば歩道の幅に対して歩行者がどれくらいいるのかといった歩行者の密度や、乱横断がどこで頻発しているかといったところまで分析していくと、ハードの

提案の際により解像度の高い提案につながっていくのではないかと思います。

それから、滞留分析を見ていると圧倒的に座っている人が少ないと感じました。ちょっとでも座れるところがあると、歩行者にとってのとまり木としての役割を果たし、その後の回遊の展開につながっていくのではないかと思います。

○委員 今回の調査のうち、滞留状況の調査以外は外国人がターゲットに入っていません。外国人は、以前より少ないとは思いますが、全体に対してどれくらいの割合なのかを踏まえた上で、外国人の行動についても調べられると良いと思いました。

○事務局 率直なところ、外国人のデータ取得には苦慮しております。データの取り方について、外国人も把握できるビックデータも出てきていますが、精度や費用等に課題があると聞いております。また、実測調査が一つの有効な手法ではないかと思っておりますが、地点や方法も含め、今後も検討が必要だと認識しております。

○委員 わかりました。滞留状況の調査には、外国人も含んでいると思われそうですが、そのような属性情報は、今回の調査結果には落とし込まれていないのですが、もし記録されていれば、そういった落とし込みをすることで新たな情報が見えてくると思います。

○会長 それぞれの調査の特徴を理解していないと、ミスリードする可能性があるので、ご注意ください。最初のwebアンケートは、40代から60代が多く、このようなアンケートにお答えいただける方は、比較的中高年が多いという結果が出ています。一方で、デジタル人流データでは、携帯電話の位置情報を基に確認するものですが、比較的20代、30代が多く、webアンケートとは属性が変わっています。そして、いずれも外国人が入っていないデータであります。先ほどの浅草、ミズマチ、スカイツリーという他地区との往來の数字は、20代や30代が多いといっている人流データから分析した数字になっています。このほかに、滞留状況の調査があって、それには外国人の方も含まれています。それぞれの調査の特徴が違うので、少しずつバランスが違ってきます。属性によって行動が変わるのではないかと、ということをご皆さんが実感として持っていると思いますので、それについてもう少し深掘りできると良いのではないかと、というご指摘だと思います。

○委員 調査によって細かいところ分かるので、大変助かっております。しかし、必ずと言って良いほど来街者の方には、浅草寺の行き方を聞かれます。道路標識は、警察が設置しているものが多いですが、案内標識を台東区の方で整備して下さるならば、ここはどこで、浅草寺や雷門はどこ、という表示がまち角にあれば人の流れがスムーズになるのではないかと考えています。圧倒的に聞かれる道筋はそこばかりなのです。最初に予備知識として道案内が示されていれば、人の流れが良くなり、初めて浅草に来られた方々が迷わずに済めば何度も来ていただけるようになり、集客の能力も出てくるのではないかと考えています。その点を、これからお考えいただくことをご提案させていただきます。

○会長 サイン計画等の話題だと思います。今までの取組みと現状について、何かあれば事務局からお願いいたします。

○事務局 案内標識等の充実については、前回のビジョンでも課題に挙げており、その後、色々取り組んできました。その中でも、まだ分かりにくいという声は頂いております。案内については、今後も皆さまと相談しながら、どこがわかりにくいのか、どのように案内すれば良いのか、また、バリアフリーという観点も絡めながら、本ビジョンでも分かりやすい案内につなげていくための課題解決策を考えていきたいと思っております。

○会長 東京都では、大規模な駅周辺のまちのサインを計画的に整備しています。新宿駅ではサイン計画を立てマップの作成などを行っており、ほかに渋谷でも行っています。渋谷では、駅とまちとのサインを同じようなスタイルで行っています。区役所の前の地図も、駅にある地図も、同じベースになっています。これから多くの方がお越しになるので、案内はとても大事ですが、資料2の5ページで、役立った情報源は、圧倒的にスマートフォンであったとなっていますので、両方を上手く使うことが大事だと思います。

空間的な情報を体感として得られる一方で、手に持っているスマートフォンでは言語の問題も対応できるので、QRコードで各言語にアクセスできる等の対応の組み合わせが必要で、両方要るのかなと思います。まちを楽しんで歩くには、自分で探しながら、迷いながらも自分で辿り着く、という楽しみもあるので、両方必要だと思います。またサインの話は考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

○オブザーバー 案内サインは、今日の資料にもありますが、ターミナル駅で行っている取組みになります。浅草の場合は、まちなかも含めた一体的な案内を考える必要があり、訪れる人がまちで迷わないようにするサインについては、他の地区でも上手くできている例はないと思っておりますので、しっかり取り組んでいきたいと思っております。一つ質問ですが、資料2の4ページ左下の浅草を訪れる際の交通手段を尋ねる設問で、鉄道が多いのはその通りだと思うのですが、平成28年度の調査では、鉄道の次に観光バスとなっているのに対して、今回の調査では自動車（レンタカー含む）が多いという結果になっています。コロナ禍でそういう特性になっているのか、今後もそのような動向なのか、一般車で来た方について、浅草では駐車できる場所もあまり無いと思うのですが、そういったことは課題になっているのでしょうか。

○会長 資料2の4ページ、左下の図ですね。来訪時の主な交通手段で、電車は以前から4分の3くらいあるのですが、観光バスが今回はかなり減って、自動車（レンタカー含む）が増えています。それは何故でしょうか。

○事務局 今回のアンケート取得時期が令和4年の11月7日であり、コロナ禍で浅草地区を訪れた方が対象となっています。正確な理由として断定はできませんが、恐らくコロナの影響はあるのではないかと推測しております。今後もこの傾向が続くかについては、観光バスの利用実績も増え、回復傾向にあるので注視する必要があると思っております。また、駐車場については、民間駐車場の他に区営の雷門地下

駐車場もあります。雷門地下駐車場は、稼働率に余裕がありますので、ある程度収容できるのではないかと認識しております。

○委員 調査によって取れているデータの特徴が違うという話がありました。NTTコミュニケーションズのwebアンケートとすると、恐らく年齢層が高いのではないかと考えています。そのため、車をお持ちの方も多く、こういった結果になった可能性もあると思います。平成28年度調査では、観光バスが多くなっていますが、サンプル数が135しかありませんので、たまたまそういう結果になっただけかもしれません。そのため、結果はかなり注意して見たほうが良いと思います。また、デジタル人流データでは20代、30代が多くなっていますが、Agoo社から取得したデータになっています。元のデータの特性や偏りなども確認した上で、正確にデータを捉えて利用して頂ければ良いと思います。

○会長 また意見交換できればと思います。よろしく願いいたします。それでは、次に議事の(3)「課題解決のための論点」について、また参考資料2別添もあわせて、事務局よりご説明をお願いします。

(3) 課題解決のための論点

<事務局より資料3、参考資料2別添について説明>

○会長 ありがとうございます。参考資料2別添については、各部会の議論、意見を踏まえて作成したものとのことです。各部会の議論について、先生方からご報告お願いできればと思います。

<岡村まちづくり部会長、清水基盤整備部会長より参考資料2を基に説明>

○会長 ありがとうございます。それでは、ご意見、ご質問等がありましたら、お願いいたします。

○委員 論点であるウォーカブルなまちづくりは、地域の活力の低下を抑え、都市の魅力を向上させることで、まちの賑わいを生み出していく取組みであると思います。浅草を重要な拠点の一つとして位置付けている私どもにとっても重要な施策であるという認識です。台東区が、浅草で中長期の都市再生整備計画を立てて着実に事業を進められてきたように、このビジョン検討においても、ウォーカブルなまちづくりについて、さらに具体的な将来ビジョンをお示しいただきながら、中長期で考えられる全体計画の中で、私どもとしても地域のまちづくりに貢献できるように検討を進めたいと考えております。先ほどあったように駅の関係につきましても、将来駅がどういったかたちで望まれていくのか、ということも含めて検討を重ねていきたいと考えております。

○委員 地区内では、タバコの吸うところで非常に困っている状況です。また、タバコの吸う場所を整備してもクレームが来たりもします。細かい問題かもしれないけど嫌気を感じています。また、通りの近くに大きなマンションが建ちますが、入居するときにこのまちはイベントのまちだから、音などでクレームをしないように確約をとってほしいとオーナーに言ったこともあります。こういったことについて、区役所にも協力していただかなければ、クレームなどの問題が起こると思います。まちを盛り上げたいと思っても、タバコやクレームが非常に大きな懸念です。

また、浅草小学校付近は、観光バスが多く、通っていて危ないと感じています。外国では、学校が1階ではなく上層階にあったりします。そんなことも考えられたら良いのではないかと思います。

○会長 お住まいである方たちと観光や賑わいとの間で、若干の軋轢が生じている訳ですね。そのあたりをどう調和をとるか。上手くバランスをとるためには、棲み分けをするかルールをつくるかですよね。他にはいかがでしょうか。

○オブザーバー 浅草は、魅力も個性もあり、どんどん伸びていく可能性がある地区だと思っています。ただ一方で、建物の更新、耐用年数の古い建物もあるので、安全なまちだということも売り出して、今後も発展していくべきだと思います。東京都の方で、個別の建物というよりは、このエリアの良さを活かしながら、建替えだけではなく改修も含めて、まちでどのようなあり方が良いのか、皆さまと相談してルール化し、改修や建替えに取り組みやすい仕組みを来年度以降、検討したいと思っています。現時点では具体的な情報提供はありませんが、是非、皆様のお声を聞きながら、浅草ルールのような、ウォークブルと一緒に建物側も考えていければと思います。

○会長 リノベーションといいますか、建物内に手を入れて、若い人や新しいアクティビティを盛り込んでいくことも各地でやられているので、浅草でも更新の時期が合えば、当然そういう方法もあると思います。昔のように全て作り直すだけが方法ではないと思います。是非、また情報を頂ければと思います。

○オブザーバー 今の内容に類する事ですが、資料3の3ページの絵が、一つの例だと思います。ウォークブルなまちづくりの議論をする際に、行政側が作成した資料の場合、道路の空間の絵しか出てこないことがほとんどです。行政側としては、民間の建物を勝手に描けないため、このような絵の示し方になるのだらうと思っています。文言では、目抜き通りにふさわしい景観の形成や、活用可能な民有地と合わせた空間づくりとか、色々と表現されようとしています。どうしても絵から入ると、道路の空間を民間の方が使えるように滲み出すような見え方になってしまうと心配しております。1枚戻っていただいたところに、左下にストリートデザインガイドラインを引用して頂いておりますが、この絵を見て頂くと、街路と書いてある空間の外側は、民間空地や広場、公園もあります。また、1階の店舗やオフィス等という文字も入れていて、必ずしも建物が無い空地だけではなく1階の空間などが、道路の空間にだけ民が出てくるのではなく、官民の空間が一体化してシームレ

スに使われることが大事だろうと思います。そういう意味で、民間側の建物の1階空間や建替えの際の空地、建替えるときの計画などにおいて、公的な空間と民間の空間が一体的に使われるような議論があると良いまちになっていくのではないかと思います。なお、若干揚げ足を取るようなことになりますが、資料3の3ページのご説明の時、歩道が混んでいて捌ききれないので歩道を拡げる、というお話があったのですが、その歩道にオープンカフェを置いてしまうと、結局歩行空間は拡がらないと思います。そのようなことも踏まえて、課題をどう解決するか、官民連携の空間で、どう整えていくのかを考える必要があると思います。

○会長 少なくとも、道路に面するところまで、どのように将来のイメージをつくるのかについて共通の理解がないと、とんでもないものが出来てしまい取り返しがつかなくなってしまうということです。道路の問題だけでなく、周辺も含めたまちづくりの議論を進めていただきたいということだと思います。

○オブザーバー 同じ話かもしれないですが、道路については、公共空間としてエリアの中にある貴重な空間であります。本来、通行する空間の役割ですが、どのような使われ方が良いのか議論しながら、他の地区でもより多様な目的で、どのように使うのかについて、様々な議論が行われています。浅草では課題がはっきりとしていて、どのように使っていきたいのか、地域の方々のお声も聞いてきているので、ネガティブな検証はしっかりやっただけであればと思います。また、駅の問題というご発言がありましたが、浅草は鉄道駅から来る人をどこで受け止めて、どのようにエリアの中に回遊させていくのかを考える必要があると感じており、これについては、駅の周りの空間のあり方も含めて議論できればと思っています。

○委員 先ほどもございましたが、敷地の中だけでなく、沿道とセットで考えることも大事だと常々思います。また、社会実験の実施や空間整備にあたり、やはりデザインは非常に大事だと思います。ただ沿道とセットで道路を使えば良いかというところではなく、そこの設えが沿道の環境や周囲の景観と一体的に連動したものとなっているのかなど、トータルで考えられた質の高いデザインを導入することで、その地域のエリア価値向上の振れ幅を最大化できると思いますので、今後社会実験や空間整備を行う際は、設置物のあり方及び空間全体の設えについても、デザインを戦略の一つに加えてもらえると良いと思いました。

○委員 浅草は、今インバウンドが戻ってきてすごいと思いますが、これで中国からの渡航が解禁されるともっと人が来ると思います。浅草は、当面黙っていても人が訪れ、観光面では困らないまちではないかなと感じています。一方で、地域危険度を見ると、建物危険度が高いまち、つまり、古い建物が多いということで、すぐに更新時期が来るということです。これから10年ぐらいは、浅草は変わり時であります。これは、住宅、商業ビルだけでなく、鉄道駅等の大きなインフラも、80～90年を迎えている訳ですから変わり時です。当面困らなくて、変わり時であるというのは、最悪のストーリーを考えると、成り行きでまちが変わってしまう可能性が高いということです。それを防ぐものが浅草地区まちづくりビジョンであると

思います。そういう意味では、時間軸でみたときに、中長期的に浅草のまちがどうあるべきかが重要であると思いますが、今回の資料を見る限りでは手元の問題に終始しているように感じます。もう少し中長期的に、どうあるべき、こうありたいということをしかりと議論することが重要だと思いました。また、資料を見ると20代、30代のお客さんが多いです。非常に喜ばしいことですが、私の解釈としては、昭和の雰囲気は歴史として価値を持ち始めていると思っています。ただ、江戸時代などその前の時代の歴史の蓄積を考えると、昭和の歴史は浅いし軽い感じもします。そういう意味では、いずれ廃れる可能性もあります。一方で、歴史とは蓄積なので、未来の歴史を今作っているともいえます。これから浅草のまちで、どのような歴史を未来に向かってつくっていくのか、そのようなこともまちづくり部会で議論いただくと良いかなと思います。今回の資料を見ると、課題解消型です。そうではなくて、未来に向けて新しい歴史をつくるつもりで、新しい何かをつくりだしていく発想も同時に必要かなと感じました。そしてスケール話ですが、浅草地区まちづくりビジョンは浅草だけでなく、墨田区、隅田川、浅草通りを介した上野との連携まで、それくらい範囲を広げて、その中で浅草のまちはどうあるべきかを議論すべきと感じました。

○委員 マクロな思いは今の意見に同意します。いずれにしても、課題追認型だけでなく、浅草のあり方について、先を見たバックキャストの議論も必要かなと思います。もう1つは、浅草の交通の視点から見たときのアクセシビリティも重要です。やはり、周辺地区を含めて駅間の距離も遠く、東京の色々な地域からも来づらいのではないかと思います。まずは、鉄道を中心にどうやって人を呼んでくるかを考えないといけない課題だと思っています。また、先ほどのように案内サインの課題があり、浅草はTXだけが離れているので、先ほど例に出した新宿などと比べると、外の空間を誘導として使わなくてははいけません。まちなかの案内サインと合わせてどのようにしていくのかについては、ひょっとすると協議会のようなものを設置していく必要があるかもしれません。そのコアが基盤整備部会かもしれませんが、事務局と対応策を考えていきたいと思っています。

○委員 生活空間としての質を上げることが大事なことだと思います。観光やイベントとのコンフリクトを解消するというものもあります。観光ビジョンではなくまちづくりビジョンですから、そこをしっかりと捉えたいと改めて思いました。特に、奥浅草、観音裏のエリアや雷門の南側のエリアというのは、まさにそういうエリアだと思います。その周辺部で、共生環境をどう考えるか、そういったことは必要だと思いました。2点目は、観光の対象となるコンテンツを育成していかないと、どうしても廃れていきますので、難しい事ですが産業や文化からどう観光対象をつくっていくかを考えないといけないと思っています。浅草の南側、御徒町や蔵前、浅草橋などは、ものづくりから派生して若者向けのカフェや工房ができるなど、観光地として人気が出ていますので、同じやり方ではないのですが、何か新しいものを生み出すような仕掛けができると良いと思っています。

○会長 ほかにご意見はよろしいでしょうか。

○委員 マンションが建設されるということで説明会に行きました。浅草の新しいマンションは1階や2階に店舗がなく、昔作ったマンションは、1階は店舗になっています。現在は、マンションをつくる際に、駐車場を置かないといけないそうですが、商業地と居住地で分けられないかなと思っています。そうしないと、浅草にこれからできるマンションは壁のようになってしまいますし、商店街の真ん中に、夜になると暗いところが出てきてしまいます。そのことについても、お考えいただければと思います。

○会長 老朽化した建物が多い地域なので、これから動きも多くなると思います。そのなかで、住宅は増えてくると思います。共働きの方が増えてきたので、都心で良いマンションで職住近接となると、若い人には特にニーズはあると思います。その時に、まち並みとしての一体性や全体のまちのビジョンとどう調和するのか、それはご指摘の通りだと思います。建築に対するルールも一緒に考えていくべきでしょう。では、最後に議事(4)「今後の検討の進め方」と報告事項等について、事務局よりご説明をお願いします。

(4) 今後の検討の進め方

<事務局より資料4について説明>

(5) その他(関東大震災から100年について)

<事務局より資料5について説明>

○会長 ご質問ご意見等いかがでしょうか。——よろしいでしょうか。これからも、部会で検討していただいて、委員会で確認するステップをとっていきたいと思います。それでは、本日の議事が終了しましたので、事務局へお返しします。

○事務局 岸井会長ありがとうございました。本日はお忙しいところご参加いただきありがとうございました。また長時間にわたり貴重な意見をいただき、誠にありがとうございました。次回の策定委員会は、7月頃に開催したいと考えております。開催日時等の詳細については、決定次第、改めて通知いたしますので、よろしくお願いいいたします。以上を持ちまして、第2回浅草地区まちづくりビジョン策定委員会を終了いたします。ありがとうございました。

4 閉 会

12時00分 閉会